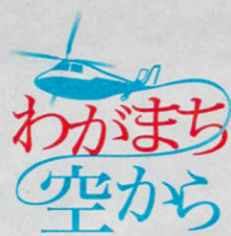




「美人の湯」に新趣向



雪に包まれた旅館から真っ白な湯気が立ちこめている。土産物店や飲食店が並び温泉街を歩くと、硫黄の香りも漂う。こんこんと湧く全国有数の硫黄含有量を誇るエメラルドグリーンの湯は、弱アルカリ性で肌に優しい「美人の湯」として知られる。

石油の掘削中、湯が突然噴き出したことで歴史が始まった。1915年（大正

日本海東北自動車道豊栄新潟東港インターチェンジ（IC）と磐越自動車道安田ICから車で約20分。JR豊栄駅―月岡温泉間でシャトルバスが運行され、大人300円、小学生150円。日帰り入浴できる施設もある。問い合わせは月岡温泉観光協会（0254・32・3151）へ。

月岡温泉（新発田市）



てカフェ風のショップ、せんべいの手焼き体験が楽しめる米菓店を開業するなど趣向を凝らし、新しい風を吹き込んでいます。

たくさんの若者を呼ぶため、音楽フェスも企画し、5年目の今年は9月2日に開催される。温泉街近くの「月岡カリオンパーク」はNPO法人地域活性化支援センター（静岡市）認定の「恋人の聖地100選」に選出され、カップルも増えている。

月岡温泉観光協会総合戦略部の飯田武志部長（36）は、「歩きたくなる温泉街をモットーに、様々な仕掛けに取り組んでいる。月岡温泉の魅力を楽しんでほしい」と話している。

4年）に開湯。共同浴場ができること、湯治客を迎える宿が根付き、生活の需要を満たすため、豆腐屋、雑貨屋が次々と集まって小さな町が誕生した。観光地化を目指し、57年には全旅館の内湯化を進めた。

85年に関越自動車道が開通し、最盛期は年間120万人が訪れた。現在のホテル・旅館は15軒で、客足は半数ほどだが、4年前に八つの施設が合同会社を設立すると、空き店舗を改装し

文・浜田喜将
空撮写真・飯島啓太
操縦士・中田浩司
副操縦士・大谷典正
整備士・片岡玄